
少年と青年

黒河誠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少年と青年

【Nコード】

N2773P

【作者名】

黒河誠

【あらすじ】

幼くも何処か優しさを感じさせる少年と優しいのかどうか分からない青年の物語。

あるところに、少年がいた。

彼は、6歳。

来年、小学生になる。

ピカピカの一年生だ。

本当に、ピカピカかどうかは知らないけれど。

そんなピカピカになる予定の少年に注目する両親はいない。

実際には居るが、彼の心の中には存在して居ない。

彼には、弟が居る。

…出来た…と言うべきだろうか。

生後6ヶ月の男の子だ。

彼は、毎日のように忙しく、泣き喚き、両親の注目を浴びていく。

まあ、主に母親だが。

そんな少年は、ある日、家を飛び出した。

なぜ、飛び出したのかは分からない。

まあ、所謂、家出という奴だろう。

彼は、家から少し離れた公園に住もうと決心した。

これは、一大決心だ。

そんな時、少年の前に、青年が現れた。

生きているのか、死んでいるのか…そこに存在しているのか、はたまた幻か。

そんな、青年だった。

青年は少年に尋ねた。

「どうしたの。」

少年は思った。

…不審者だ。

よく、そんな言葉を知っているものだ。

おそらく、その言葉の意味するところは、あやふやだろう。

しかし、少年の心は限界だった。

話さずにはいられなかった。

離さずにはいられなかった。

繋ぎ止めておきたい気もしたが、一度、離してみたかった。

「お父さんとお母さんが弟ばかり可愛がるの。もう僕は、居らないみたい。」

青年は、困惑した表情を浮かべた。

表面上だけに。

青年は彼に言った。

「きつとお父さんとお母さんは、君が生まれた時も、同じように、大事に、大切に、可愛がってくれたはずだよ。なら、今度は、君がお返しする番だ。お父さんやお母さんのお手伝いになる事、君に出来る事を、君なりに精一杯、一生懸命やってみたらどうだい？」

青年は続けて言った。

「もしそれでも、君のお父さんとお母さんが君を愛してくれなかったら：僕が君を愛するよ。と言っても、君のお父さんやお母さんの代わりになれる訳じゃないけどね。君が寂しかったり、誰かと遊びたかったりする時は、僕の所に来てごらん。僕は何時でも、この公園に居るから。」

：何時でも：？

少年は、不思議に思ったが、彼の言葉に、どこか安心し、家へ帰る気になった。

その後、少年は、その公園に助けを求めに来る事は無かった。

お父さんとお母さんのお手伝いで忙しかったから。

むろん、家族みんなで遊びに来る事はあったが。

(後書き)

フィクションです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2773p/>

少年と青年

2011年9月9日15時13分発行